

国際交流基金アジアセンターpresents 「CROSSCUT ASIA」第2弾、フィリピン特集に決定

国際交流基金(ジャパンファウンデーション)アジアセンターでは、昨年度より、毎年秋に開催される東京国際映画祭(Tokyo International Film Festival:以下、TIFF)とのコラボレーション企画として、国、監督、俳優、テーマなど様々な切り口のもとでアジア映画を特集する「国際交流基金アジアセンターpresents CROSSCUT ASIA」を設け、各国を代表する映画の上映や賞の授与を行っています。

この度、昨年大好評だったタイ特集に続く第2弾として、豊かな映画史を誇り、今まさに「第3期黄金時代*」に突入したと世界的に評されるフィリピン映画の世界を特集することが決定いたしました。

今回は、カンヌ国際映画祭監督賞受賞の『キナタイ マニラ・アンダーグラウンド』などで知られる若き巨匠、ブリランテ・メンドーサ監督を特集(メンドーサ監督については次頁をご参照)する他、フィリピン映画の今を感じる注目のラインナップを予定しています。つきましては、是非貴媒体にて本情報をご紹介頂けますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

■ 特集タイトル: 国際交流基金アジアセンターpresents

「CROSSCUT ASIA #02 熱風! フィリピン」

- 概要: アジアの国、監督、俳優、テーマなどに焦点を当て、アジア映画の特集上映を行う「CROSSCUT ASIA」(クロスカット・アジア)は、2014年、TIFFの一部門として新設立された部門。アジアの現在(いま)を鋭く切り取った珠玉の映画を紹介していきます。本年度の上映作品の詳細につきましては、順次ウェブサイト等でお知らせします。

第28回東京国際映画祭

【開催期間】 10月22日(木)~10月31日(土)

【会場】 六本木ヒルズ(港区)ほか

【オフィシャルウェブサイト】 <http://www.tiff-jp.net>



※画像等 各種素材はイメージネットにて配信しております。(<http://www.image.net>)

*<フィリピン映画 第3黄金期とは>

フィリピン映画の最初の黄金時代は、第2次世界大戦後の1950年代に到来。大手映画会社がスターシステムで娯楽映画を量産する一方、巨匠監督たちも活躍した。60年代の停滞期を経たのち、70~80年代に第2期黄金時代を迎え、反骨精神を秘めた硬派の傑作作品が生まれ、リノ・ブロッカやイシュマエル・ベルナルなどの監督のもと、“アジア・インディペンデント映画の父”と称されるキドラット・タヒミック(『悪夢の香り』)のように映画産業とは無縁のインディーズ作家も登場した。そして、21世紀のデジタル時代は若いインディペンデント作家たちが続々と台頭し、インディーズの祭典であるシネマラヤ映画祭などを通じて、『囚われ人パラワン島観光客21人誘拐事件』のブリランテ・メンドーサ、『昔のはじまり』のラヴ・ディアスはカンヌなど国際映画祭の常連となり、世界的に注目されている。メンドーサがデビューした2005年あたりから現在に至るまで、フィリピン映画の第3期黄金時代が続いている。

●お問い合わせ: 東京国際映画祭事務局 プロモーショングループ

Tel: 03-3553-4793 / Fax: 03-3553-4788 / E-mail: tiff-pr2015@tiff-jp.net

●国際交流基金に関するお問い合わせ: 国際交流基金 アジアセンター(村田、掛谷) Tel: 03-5369-6025

コミュニケーションセンター(担当:川久保、麦谷) Tel: 03-5369-6089 / E-mail: press@jpf.go.jp

<資料>

■ プリランテ・メンドーサ監督 プロフィール

フィリピンのインディペンデント映画界における至宝であり、最も重要なフィリピン映画製作者の一人。様々な映画やTVコマーシャルのプロダクション・デザイナーとしてキャリアをスタートし、2005年、インディペンデント映画プロダクション「センター・ステージ・プロダクションズ」を自ら設立し、フィリピン映画の再興に貢献。監督デビュー作『Masahista (The Masseur)』は2005年ロカルノ国際映画祭ビデオ部門で金豹賞を受賞し、フィリピン映画の新たな潮流を生み出した。母国のストーリーを世界に発信し続ける彼は、フィリピン人監督として初めて三大映画祭全てのコンペティションに作品を出品し、受賞を果たしている。近年では、フランス政府より芸術文化勲章を授与され、フィリピン人監督としては初めて、巨匠ベルナルド・ベルトルッチやダリオ・アルジентと並ぶ栄誉を授かった。最新作『TAKLUB』は現在開催中の第68回カンヌ国際映画祭のある視点部門に出品されている。



■ 主な監督作品

- 『Tirador (Slingshot)』(07年 ベルリン国際映画祭 カリガリ賞受賞)
- 『Serbis (Service)』(08年 カンヌ国際映画祭 コンペティション部門出品)
- 『キナタイ・マニラ・アンダーグラウンド』(09年 カンヌ国際映画祭 監督賞受賞)
- 『Lola』(09年 ヴェネツィア国際映画祭 コンペティション部門出品)
- 『囚われ人 パワン島観光客21人誘拐事件』(12年 ベルリン国際映画祭出品)
- 『Thy Womb』(12年 ヴェネツィア国際映画祭 the La Navicella Venezia Cinema Award受賞)

■ 監督からのコメント

「今回の東京国際映画祭で私の映画やフィリピンの映画が上映され、映画祭の一部となることを大変嬉しく思っています。皆さん、どうかご覧ください。東京国際映画祭はフィリピン映画だけではなく、私達が普段映画館で観られないような趣向の変わった類いの映画を観ることができる最高のチャンスです。東京国際映画祭をみんなで応援しましょう。」

【国際交流基金アジアセンター】 <http://www.jfac.jp>

国際交流基金アジアセンターは、アジア域内に住む人々の間に、共に生きる隣人としての共感、共生の意識を育んでいくことを目指し、文化事業、知的交流事業、日本語教育事業をはじめとした幅広い分野で、日本とアジア諸国との交流と協働を促進、強化するさまざまな活動を行っています。東南アジア地域を主な対象とする交流事業や調査・研究活動などを支援する助成プログラムも実施しています。詳細はウェブサイトをご覧ください。

【東京国際映画祭(Tokyo International Film Festival, TIFF)】 <http://2014.tiff-jp.net/ja/>

28回を迎える東京国際映画祭(以下、TIFF)は日本で唯一の国際映画製作者連盟(注1)公認の国際映画祭です。1985年、日本ではじめて大規模な映画の祭典として誕生した TIFF は、日本及びアジアの映画産業、文化振興に大きな足跡を残し、アジア最大級の国際映画祭へと成長しました。いまや最も熱気溢れるアジア映画の最大の拠点である東京に、世界中から優れた映画が集まり、国内外の映画人、映画ファンが新たな才能とその感動に出会い、交流する場を提供します。

(注1)国際映画製作者連盟:世界の映画産業、国際映画祭の諸問題を改善、検討する国際機関。パリに本部を置き、世界29ヵ国(2015年5月現在)が加盟している。